

■日時 令和6年8月15日(木) ■天候 晴れ

東京都立世田谷泉高校 対 天理高校

■球場 JPアセットスタジアム江戸川 第4試合 4回戦 準決勝 ■試合時間 2時間50分 ■備考

■審判 球審:竹本 塁審:福田 牧野 田村

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9							計	安	失
天理高校	東近畿・奈良	0	4	0	4	0	0	0	2	0							10	6	2
世田谷泉	東京2	0	1	0	0	0	0	5	0	0							6	7	7

天理高校

	ポジション					氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9								
1	中					水田 一成	4	0	0	0	四球	右失	遊ゴ		三振		投ゴ	四球									
2	三				捕	船越 功	4	1	1	0	三振	遊安		四球	三振		四球	三振									
3	捕				投	片山 蒼四郎	3	1	2	1	遊安	左犠		四球	四球		中安		一失								
4	遊				三	高尾 昂志	5	1	0	0	投飛	一飛		四球	捕飛		三ゴ		中飛								
5	一					小西 健太	4	1	0	0		四球	四球	一飛		三振	右飛		投併								
6	右			左		肥後 一希	5	3	2	3		左安	一失	左2		一失		二失									
7	二					山崎 善春	2	1	0	0		右飛	一邪	四球		四球		四球									
8	左					中林 章太郎	4	1	1	1		右安	遊飛	三ゴ		遊ゴ											
8				右		中塚 大陽	1	0	0	0								一ゴ									
9	投					鈴木 快	1	1	0	1		四球	四球	三振													
9		打				櫻井 誠也	1	0	0	0						一ゴ											
9			投		遊	奥田 泰人	1	0	0	0								三振									
合計						35	10	6	6	残塁:13 併殺:0																	
備考																											

■バッテリー

投手	捕手
鈴木 快	片山 蒼四郎
奥田 泰人	船越 功
片山 蒼四郎	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
鈴木 快	5	21	2	4	5	1	84
奥田 泰人	1	1/3	12	4	2	4	40
片山 蒼四郎	2	2/3	8	1	5	0	39

世田谷泉

ポジション					以降、 右側に記載	氏名				打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	ポジション				
1	中		二			菅谷颯太	3	1	0	0	三ゴ		三振		四球		四球	三振							中		
2	遊		投			金子怜史	4	1	2	0	三振		死球		右安		右安		三振						遊		
3	一					須郷遥斗	5	0	1	0	中飛		一邪		三ゴ		三振		中安							投	
4	投	三				大澤奏太	4	1	1	2		遊飛		三振		四球	左安	二ゴ									
5	捕					大城良太	4	2	1	2		四球		三振		中飛	左2	右邪									
6	二		遊			羽木謙士	3	0	2	1		四球		右安		三失	中安								二		
7	三	投	中			山中太郎	3	0	0	0		四球		投ゴ		二ゴ	三振								投	一	
8	左					佐藤成実	4	0	0	1		一ゴ		遊ゴ	三振		三振										
9	右					内山珀	2	1	0	0		三邪		一ゴ													
9				打	與陸弥	1	0	0	0									四球	三振					右			
					合計	33	6	7	6	残塁:8 併殺:1																	
					備考																						

■バッテリー

投手	捕手
大澤 奏太	大城 良太
山中 太郎	
金子 怜史	
須郷 遥斗	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
大澤 奏太	2	13	4	1	3	2	45
山中 太郎	5	29	1	5	11	4	120
金子 怜史	0	2/3	4	1	0	0	15
須郷 遥斗	1	1/3	4	0	1	0	14

■戦評

JPアセットスタジアム江戸川で行われた準決勝第2試合は共に同日午前中神宮球場で行われた準々決勝を完勝した東京都立世田谷泉高校と天理高校の対戦となった。先攻の天理は2回9番鈴木 快の押出しや敵失などにより4点を先制する。対する世田谷泉はその裏8番佐藤 成実の内野ゴロにより1点を返す。4回天理は一死満塁から6番肥後 一希が走者一掃の適時三塁打を放つと8番中林の内野ゴロにより生還し4点を追加する。8-1のまま7回を迎え後の無い世田谷泉は一死満塁から4番大澤が2点適時安打を放つと5番大城が2点適時二塁打5番羽木が適時安打で続きこの計5点を返し2点差に迫る。ここで天理は片山を救援のマウンドに送り世田谷泉の反撃を食い止めると8回相手のミスから2点を奪い試合を決めた。試合は10-6で天理が逃げ切り2年ぶりの頂点に王手をかけた。一方惜しくも敗れた世田谷泉であったがこの試合でも天理を上回る7安打を記録するなど高い攻撃力を生かし得点を重ねつつ複数投手の巧みな継投で相手の攻撃を抑えていく戦いぶりは全国三位の名にふさわしいものであったことは言うまでもないだろう。